

COLUMN: 先生紹介 ▶ 吉田 彩乃 (今福教室)



初めまして。今年から今福教室でチューターをさせていただきます。吉田彩乃と申します。

私は元カイチ生で小学5年生からお世話になっています。高校は大阪国際大和田高校に進学し、今は同志社女子大学で長期留学を目標に世界情勢を学んでいます。

今日は私の経験について話したいと思います。私は第一志望の高校には行けず、1.5次試験での合格で、校風などが全く分からないまま入学しました。私の高校生活は、友達と帰り道に寄り道を

『努力は必ず報われる』
今は明確な答えがなくても勉強を辞めないで。
やっつけて良かったと思う日は必ず来ます。

したり、体育祭や文化祭では携帯で写真を撮ってインスタに投稿したりなどを考えていましたが、入学してみると180度違う生活が待っていました。毎朝の英語の小テストや週末には模試や英検、TOEICなどを受験させられ休日がない週もありました。当時は、試験の必要性が分からず休みがないことに納得できずに反抗することもありました。心から勉強が嫌いになったこともありますし、病みそうになったこともあります。ですが、今となってはあの時頑張ってたかったと心から思います。大学でも今までに取った資格のおかげで役に立つことも多々ありました。

皆さんも何のために勉強しているのか、なぜ今試験を受けないといけなくなるのか分らなくなることはありませんか。勉強嫌いになることはありませんか。

もし今、明確な答えが出なくても決して勉強を辞めないでください。いつかやっつけて良かったと思う日が絶対に来ます。私は縁があって指定校のお話をいただくことができました。

そんな私の座右の銘は「努力は必ず報われる。」です!

この言葉を胸に一緒に頑張っていきましょう! これからどうぞよろしくお願ひします。



川西のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE 川西 久志 (今福・古市教室)

ユニットピアささやまに行ってきました!

春の遠足で兵庫県の「ユニットピアささやま」に行ってきました。



▲今回は180名の遠足となりました!

バスは3台、先生・生徒を合わせて総勢約180名という大所帯。私が乗った古市バスは行きではイントロクイズを近久先生がやってくれて早速盛り上がりを見せました。初級編の「二人はブリキア」は開始2秒で女子勢が手をあげまくります。正解後にお友達同士で歌ってリズムに乗っていました。「サザエさん」などのみんなが知っているアニメソング終了後は「TWICE」なども出題しましたが、全て正解。今の流行りについていけない私は初めの方でリタイアしていました。



▲アスレチックが始まると、どんどんワイルドに!



▲↑魚釣り、難しかった!

到着後は、アスレチック班と釣り班に別れていざ出陣です! 私はアスレチックの高学年担当でしたが、このアスレチックが本格的。先生達の打ち合わせでも、怪我人を出さないようにと何度も確認を行いました。子供達はそんな私達の心配をよそにどんどんポイントをクリアしていきま

とにたく、大人と違い身軽! 最初は「怖い!!」と言っていた子供達も、2、3ポイントをクリアすると、すっかり野性的になり、ぐんぐん綱を登り、縄の上を歩いていました。

アスレチックの後は、お楽しみのお弁当タイム。お母さんが作ってくれたお弁当をうれしそうに食べ、お菓子タイム。大切なお菓子をわざわざ先生達に分けて来てくれる生徒もいました。お弁当タイムが終了すると、食後の軽い運動とばかりにオリエンテーリングを開始。各ポイントにクイズがあり、それに正解すると次のポイントに行くことができます。お天気もよく、ポイントとなる杭を探すのに歩き回るため、私達大人にとっては結構きつい。それに反して、杭が見つかる子供達は一斉に走るののでついて行くのが大変でした。

オリエンテーリング終了後はドッジボール。ドッジボールを生きがいにして遠足に来ている生徒が古市教室にはいます。とにかく古市教室はドッジボールが強い。メジャーリーガーの大谷選手ばりの剛速球(やわらかボールなので顔に当たってもびっくりするのですが)を投げていました。ドッジ大会では必ずこういった恐ろしい選手が隠れているので、カイチ特別のやわらかボールを使用します。当然のごとく全勝していました。ぜひとも野球部に入っていたきたいものです。

ひとしきり遊んだ後は帰りのバスで映画鑑賞です。疲れて寝る生徒、映画を真剣に見ている生徒、お菓子を食べておしゃべりをしている生徒。帰りはいつも思い思いに過ごしてもらっています。なぜか歌をずっと歌っている男子生徒がいました(笑)。生徒達を無事集合場所に帰した後、私も帰宅しましたが、疲れ切って夕方から朝までずっと寝てしまいました。私も年なのかなあ。

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

May 2019
Vol. 81
毎月10日発行

【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563



高木 秀章 (塾長)

「世界7大陸を走って学んだ諦めない心」 北田さん、素晴らしい講演ありがとうございました。

4月20日(土)、アドベンチャーランナーの北田雄夫さんに「世界7大陸を走って学んだ諦めない心」と題して講演をしていただきました。

北田さんが挑戦するアドベンチャーマラソンとは大自然(砂漠、ジャングル、山、南極など)の中を走る世界で最も過酷な競技で平地だけでなく、崖などを登ることもあります。レース中に必要となる食料、寝袋、サバイバル道具などをリュックで背負いながら3~30日間200~1000km走る競技だそうです。



アメリカに分けて話してくれました。

その中でも、私が印象に残ったのが最も痛いレース。グランドトゥグランド、アメリカのグランドキャニオンを5日間で230kmで走るレースの話でした。このレースの平均気温は20℃。最も暑いレースのアタカマ砂漠の45℃、最も寒いレースのスウェーデンの-20℃に比べると俄然走りやすいと考え参加したレースだったそうです。最初は快適に走っていたが、足に水ぶくれが。大きくなってはいけなないと、水ぶくれを潰し皮を取って走るが、やがて足の裏全体が水ぶくれになり痛みがはしたそうです。それでも走り続けると、足の裏から膿が出始めグチュグチュの状態になり、ついには、風が当たるだけで激痛が走るほどになったそうです。それでも誰も助けてくれない。とにかくゴールするしかない。意識が朦朧とする中、痛みが体の許容範囲を超えて麻痺していった。もうそれだけでラッキーで、とにかく一歩ずつ進めば必ずゴールにたどり着ける。そんな思いで走ったそうです。右がその時の足の裏の写真ですが、いかにこの競技が過酷なのかを物語っています。

壮大で過酷な自然の中、ただ一人黙々と走る。砂漠の中も一人、氷の中も一人…。もし道を間違えたら、もし食料がなくなったら、もし怪我でもしたら…。誰も助けてくれない。立ち向かう術はただ一つ「自分でできることをする」。参加費用は10万~150万円(渡航費、滞在費、装備品別)。でも賞金はナシ。

「なぜ、こんな過酷なレースに挑戦し続けるのか?」
誰もが疑問を持ったに違いありません。
ここから話は、北田さんの子供時代からアドベンチャーマラソンに出会うまでに移っていきました。



彼が小学生の頃は小心者で運動があまり得意ではなく、成績も真ん中で平凡な学生だったそうです。このようなレースに出ている方なので、生まれつき強靱な体をお持ちかと思うと、朝礼では貧血で倒れるような子供で、今もそれは続いており、肝臓にも注意が必要で医師からはこのようなレースへの出場は避けるべきだと言われているそうです。

ただ、走ることは中学生の頃から好きで、大学時代には4x400mリレーで日本選手権3位に。ただ、学生最後の大学日本一を決める決勝レースに怪我で出場できず、また、優勝した選手と現状の自分とのタイム差を見た時、越えられない壁があるのではないかという大きな挫折を味わい陸上から身を引いたそうです。

その後、就職して社会人としての生活を順調に過ごしていく中で、陸上ほど夢中になるものがない自分に気づく。そんな中、「自分が通用できること。そう、誰もやろうとしないことをやろう。」と過酷なトライアスロンに行き着いたそうです。しかし元々短距離選手の彼は、持久走が苦手。その上、あまり泳げない。必死のトレーニングの末、トライアスロンのレースに必要な400mがなんとか泳げるようになり出場するも、海の中でレーススタートを待たせられたりとか。それでも3年後には鉄人レース(スイム4km、バイク120km、ラン30km)を走破。



そんな中、アドベンチャーマラソンを見つけ、「これだ!」と思い、初めてゴビ砂漠のレースに出場。毎日走り続け、食べたいものも食べられない、苦しい、つらい、命をさらすようなレースの中で、生きていくことを実感したそうです。ゴールの瞬間、レースを戦ったライバルは、共に苦しみを乗り越えた仲間になり、今まで味わったことがない、とてつもない達成感に襲われたそうです。

その後、彼はアドベンチャーマラソンで日本人初7大陸制覇を成し遂げます。彼は講演の中で「その先に何かがあるのかを知りたい。どんな自分がそこにいるのか。ただその好奇心があるんです。」と話していました。

また、チャレンジを続けるための3つの考え方として、「小さなゴールを設定する」「成功よりも成長」「とりあえずやってみる」と話されていました。周りから見た成功ではなく、自分の中で感じ取る成長を大切に。成功を目指せば失敗と挫折があるかもしれないが、成長を目指せば失敗や挫折も糧になる。

ただひたすら、自分と向き合う。自分ができることをする。

走ることを通して、彼は成功を目指し挫折した大学時代から大きな成長を遂げ、さらに成長し続けているのだと思います。

講演終了後は、残っている生徒達一人一人に声をかけていただき、写真や足の筋肉を触らせてくれたり、とても温かい講演会になりました。それはまるで「僕にもできるんだ。君たちも頑張れ」と無言のエールを送っているようにも見えました。



カイチからのお知らせ

- 5月29日(水)は小学診断テストです。
- 5月下旬各中学で中間テストが実施されます。それに伴い塾内ではゴールデンウィーク明けより定期テスト対策を実施いたします。お子様の学習の様子に不安があります時は各教室にご遠慮なくご相談ください。
- 5月11日・18日(土)(※学校により9時間自習日は異なります。)は中学生対象で9時間自習を13時~22時で行います。みんなで頑張りましょう。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



6年制私立専門塾 エニグマ 谷町9丁目を開校

富田 昌史 (エニグマ)



▲エニグマは地下鉄谷町9丁目
2番出口スグにあります



▲オレンジ色のイスがオシャレ! 第1教室



▲いつでも使える自習室。

① エニグマをなぜ作ったのか

ある時、中高一貫校に進学したカイチの生徒さんが塾長を訪れたことがありました。その生徒が浮かぬ顔をしていたので、「どないしたん?」と聞いたところ、「私学の中学に入ったんやけど、全然勉強についていけへんねん」「でもええ塾もなく、どないしたらええかわからへん」と答えたそうです。

それを聞いた塾長は、「この子は地頭もよく、せっかく私学に入ったのに…。いくらでも可能性のある子が勉強を嫌になるなんて、本当にもったいない」「私学の中学数学は一年で終わってしまう。他にないなら、そんなカリキュラムでもついでいける塾をうちでも作っただろう」と思い、それがエニグマ設立の原点となりました。

私がカイチに入り、塾長に挨拶した時にまっ先に言われたことは、そのような「エニグマを作りたい」と「その理由」でした。私自身中高一貫校出身ですが、塾長を訪ねてきた生徒さんの気持ちは、痛いほど理解できました。進度の早さに苦しんだ時に相談する場所が少なく、優秀な生徒と比べ劣等感に悩んだ経験があったからです。

また中高一貫生をこれまでに多数指導する中で、今も多くの生徒が同じ悩みを抱えていることを感じました。特に保護者の方から、「学校で追いついていけない場合に良い場所が少ない」、「柔軟に深く教えてくれる塾が少ない」という意見を受けました。中高一貫校向けの学習塾では、成績上位層だけを対象とした大人数授

業のみをおこなう所もあり、彼らの行き場は少ないのが現状です。そのため彼らのような生徒に合った塾に何が必要かをこの数年考え続け、この4月より念願の中高一貫生専門塾「エニグマ」をスタートいたしました。

② 授業システム

進度が早く、範囲も多い学校の授業についていけなくなった生徒は及び腰になりがちで、補習塾のスタイルでは苦手意識は解決できません。早いうちにこの流れを変えなければいけません。そのためエニグマには、二つの授業の軸があります。

一つ目は、各生徒さんの学習状況を見極めた上で「適切な」解説と、日々の学習の具体的な指示です。このためには大人数の授業では厳しいため、最大6人の少人数指導で徹底的にフォローしています。



▲白い机がゴージャス! 第2教室

二つ目は、段階的な演習です。分かった気になっただけでは定着が難しく、効率的な反復演習が理解への早道です。そのため授業に加え、同じ時間のフリーラーニング(必修)をつけています。この時間で習った内容、学校の予習を行ってもらい、定着を目指しています。またフリーラーニングやいつでも自習に来られるように、個別の自習スペースも用意しています。

③ カイチ予備校との連携

また、私や他の講師は予備校でも授業を持っており、相互の受験指導経験を活かしながら常に情報交換を行っております。エニグマにはなかなか個性的な生徒さんが集まっていますが、そのように多くのタイプの生徒さんの指導を蓄積することで、エニグマ・予備校ともにさらに生徒それぞれにあった、受験指導ができるようになると思っています。

まだ4月に開校したばかりのエニグマですが、講師一同よりよい塾になるように全力をつくしていきます。どうぞよろしく願いいたします。



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



受験対策について ~もうレースは始まっている。目標と現在地を知り、 ペースを上げ、レース後半へつなげよう~

坪田 陽一 (諸口教室)

もう5月。中学3年生は春休みやGWの長期の休みをどのように過ごしましたか? 入試説明会でも話があったかと思いますが、受験勉強に費やす時間は思ったよりありません。今は中3の授業内容の理解と並行して、中1、2の復習を進め、1学期中にあらかた終わらせるように、出来る限り前倒しの計画を立てて進める必要があります。だからこそ、ライバル達より一刻も早くスタートし、ペースも上げておかなければなりません。

とはいえ、「まだまだ時間はある」と気を緩めてしまう人も多いでしょうし、周りがまだ部活に一生懸命で、自分もそれに気を取られ、結果として勉強になかなか意識が向かない人も多いでしょう。

カイチでは、そんな皆さんに対してハッパをかけるべく、「実力診断テスト」「受験勉強進捗チェック表」という二つを準備しています。

① 実力診断テスト…目標までの距離を知る

既に3月、4月と実施していますが、模試の過去問を時間を設けて解いてもらい、偏差値も割り出します。上位者の順位表および推定偏差値を各ご家庭に郵送し、また各学校の目標偏差値も郵送します。それをもとに自分が今の位置にいるのか、「あと何点足りないか」を確認してもらいます。



▲実力診断テストでは目的意識を持って勉強できるよう志望校までの点差差を確認できます。



▲受験勉強進捗表で何をいつまでに勉強すれば良いのかが明確に理解出来ます。

② 受験勉強進捗チェック表…

目標達成の為今何をすべきか知る

実力診断テストで発見した苦手教科や単元を克服し、次のテストで目標に近づく為に学習を進めますが、「苦手ばかりで何をしたらいいのかわからない」という声も聞こえてきそうです。その為にカイチでは「受験勉強進捗チェック表」をクラス別に作成しました。勉強の王道である、

1. 1冊の良質な問題集をやり抜く。
2. 間違い直しをし、苦手分野は教科書や解説を見て理解。
3. 分らなければ質問。

この繰り返しができるように作られています。与えられたテキストをボロボロになるまで使い切ってもらいます。

受験勉強は、各自コースが異なるマラソンを走っているようなもの。トップ10校を目指す生徒、中堅校を狙う生徒、はたまた私立に行きたい生徒、等の様々な目標が考えられますが、それぞれゴールまでの距離やコースの難易度が異なります。そのマラソンは来年3月までという時間制限があり、また「上位何名まで入賞(合格)」とメダルの数も決まっています。

①の実力診断テストは「今の走るペース(学習量)で入賞できるか」を知るものであり、この結果(偏差値)が目標とかけ離れているようであれば(具体的には5以上の差)、ペースを見直す必要

があります。単純に量が足りないのであれば、時間を捻出し、②のチェック表の項目をこなしていく量を増やしましょう。すでに量を増やして一生懸命しているのに結果が伴わないなら、学習の方法がまずいのかもかもしれません。先生に相談してみましょう。

先日、教育講演会でアドベンチャーランナーの北田雄夫さんのお話をうかがいました。私も司会として舞台横で聞いていましたが、本当に過酷な世界で、圧倒されました。何より過酷なのは、レース中たった一人だということ。準備やレース中のコースの確認、健康管理やけがの処置、あらゆることを全て自分がしなければいけません。何か一つ間違えば命の危険につながります。

翻って生徒の皆さんはどうでしょう。きちんとベテランのサポートチームがついています。健康管理には保護者の方々が付き、衣食住のお世話までしてくれます。学習のアドバイスはプロの先生達が親身になって答えます。しかもメダルは数個どころではなく、多ければ300人以上がもらえるわけです。サポートチームをきちんと活用し、ペースを守り続けられれば、メダル獲得の可能性は飛躍的に高まります。

今すべきことを確実にし、レース後半へつないでいきましょう!